

千里北町住宅 2回目のお餅つき大会

11月29日、昨年に引き続き二度目のお餅つき大会を開催される、千里北町住宅団地管理組合法人を訪問しました。天気に恵まれ、12月がすぐそこというのに温かな日差しが心地よい日曜日の朝でした。

スタート時刻の10時少し前、早くも会場となる中庭に据えられた臼の周りでは、つき手と返し手が手順を確認し、蒸籠からは盛んに湯気があがり、餅取り粉をたっぷりふるったのし板の前では、三角巾と割烹着姿の女性理事が今か今かとつき上がりを待っています。準備万端です。

これまでの準備と当日の主な役割を担当したのは14名の役員の皆さんです。役員は任期1年で全員入れ替わるので、全員が「お餅つき大会初



心者」ですが、マンションが竣工してから45年が経過した昨年に新たな試みとして始まったこのお餅つき大会は、前期役員から、居住者にとっても好評だったので是非とも継続して実施して欲しいと引き継がれた行事であり、唯一の団地独自のコミュニティイベントということもあって、皆さん気合い十分です。「イベント業者に、必要な用具と材料の手配と、当日の準備から後片付けまでをサポートしてもらっているの、衛生面とお天気のことだけ心配しておけばいいのです。」と今期の理事長さんは謙遜されますが、10月の理事会から具体化を始め、今年らしさも追求して体制を整え、こうして本番を迎えられた理事長さんの、穏やかに時に厳しく会場を見渡す眼差しからは意気込みが感じられました。

「よいしょ！よいしょ」の掛け声とお祭りムードに誘われて、会場には徐々にたくさんの人が集まってきました。つき手と返し手の動きもいよいよリズムカルです。お餅が粗方つきあがると、まだかまだかと出番を待っている子どもたちに杵が引き継がれます。子ども用の小さい杵を、大人に手助けしてもらいながら一生懸命振り下ろす姿に、みんなの笑顔が溢れます。昨年度の理事長は、参加者が多くなったととても喜んでおられました。去年はつき手が少なく、一人でたくさんついたために翌日腕が上がらなくなった役員さんもおられたそうですが、今年は特に男性の参加が増えたから大丈夫と一安心されたようでした。たくさんの人の手を経てでき上がったお餅の味は格別です。

割烹着姿で手早くお餅を切り分ける女性にお話を伺うと、その方は区分所有者であるけれど居住はしていませんが、この団地にお住まいのお友達からお手伝いを頼まれて駆けつけたのだとか。「とても楽しいですよ。」と明るく応えてくださいました。

翌週に初めてのお餅つきイベントを控えているという、他所の2つのマンションからも、それぞれ理事長が視察に来られていました。近隣で建替えたマンションの理事長は、仮住いをしていた昨年にこの団地でお餅つきを体験し、それをきっかけに新しくなったマンションでもお餅つきを実施することを提案されたそうです。建替えて大所帯になったけれども、人々の絆を深めるにはやっぱりお祭りしないとおっしゃっていました。

臼の周りに人が集い、そのまた周りで子どもたちが元気よく遊び、普段はあまり外に出てこない人も顔を見せ、敷地のそこかしこ



で立ち話が始まる。杵の音、かけ声、笑い声が響き、マンション全体が活気に満ちている。「真価の間われる2年目」と言えば大袈裟ですが、一人暮らしのお年寄りにももっと外に出て来て欲しい、住民同士が交流する機会をつくりたいという管理組合の願いから始まった千里北町住宅のお餅つき大会は、大成功と言えるのではないのでしょうか。取材をさせていただいて、このお餅つき大会を「仕掛け」の第一弾として、千里北町住宅は今後ますますコミュニティの輪を広げ、子どもからお年寄りまで居住者が安心して楽しく暮らすことができる、人のぬくもりの感じられる魅力的なマンションになっていく予感がしました。

(あっちこっちコミュニティ取材班)